

浜加積地区の主な提言等と回答要旨（H27春に開催した「市長と語る会」で）

提言等の項目	H27に開催の「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
①通学路の街灯	東部小から早月中にかけての通学路は街灯が少ない。帰宅が夜間となる子ども達が安心・安全に帰宅できるよう、追分交差点付近までも含め、より街灯を充実させてほしい。	街灯の新たな設置については、市内各地からしばしば要望が寄せられます。市側でまず、現場を確認し、夜間にどの程度危険であるか等を調査します。
②人口減少対策	県の統計データを基に、滑川市の過去1年間の人口増減はマイナス92人で「減少率が県内自治体の中では最も小さい部類」と肯定的な見方が示された。しかし、この年たまたま良かっただけかもしれない。人口増減の要因は複合的なので、分析が必要だ。昨年の数値について、自然減・社会減別に知りたい。最近5年間の減少数の推移も知りたい。	人口動態データとしては、自然増減に関する出生・死亡者数、社会増減に関する転入・転出者数があります。平成25年度については、出生者260人と死亡者406人で自然減はマイナス146人、転入者920人と転出者931人で社会増はマイナス11人となり、合わせてマイナス157人でした。最近数年間についても、概ね150～160人で推移しています。（※平成24年度はマイナス166）
③浜加積保育園前の信号	浜加積保育園前の信号は、歩行者の押しボタンを押さない限り、夜間も青のまま、車が高速で走行して危険だ。「点滅式に改めてほしい」と、昨年この場でお願いしたが、「警察に確認したが無理」との回答が示された。システム等の技術面で無理なのか、それとも公安委員会のルールの無理なのかなど理由を示してほしい。	詳細な理由については判然としない点もあり、再度、警察に確認を入れます。
④除雪	除雪されない道が町内にあり、困っている。市の建設課に行くと、いつも「お金が無くてできない」と退けられる。市が年間、除雪にどれだけ予算を立て、どこを除雪する計画なのか、市民には判然とせず、納得がいかない。冬期間に自動車税が免除される豪雪地帯の例を聞いたことがある。	除雪は市道全体（総延長284km、全718路線）で実施したいところですが、除雪率は約68%（192km）に留まっています。早朝3時頃から7時までの限られた時間に、市職員や委託業者の僅かな人員で作業にあたっていますが限界があります。除雪機の購入費用等に対する補助制度も設け、地域ぐるみの自主的な除排雪活動でご協力をお願いしているところです。特に、今回ご指摘の道は、市道ではなく農道であり、除雪車の重みで路肩が崩れる危険もあります。なお、除雪に係る予算は、平成24～26年度でそれぞれ約4,800万円、1,600万円、5,500万円です。
⑤GO!5・0!がん検診	今年度の主な事業にある「GO!5・0!がん検診強化事業」は、予算が1,338万円だ。もし受診対象者の100%が受診を希望した場合に対応できる予算額なのか。もし、100%未満を想定した額なら、どのような理由によるのか。目標に掲げる受診率に基づき、予算を組むべきではないか。最近の受診率や予算の支出額もこの場で教えてほしい。	平成26年度の「GO!5・0!がん検診」は、対象者2,368人中655人が受診しました。受診率は肝臓が33%（平成25年度32%）、胃が28%（同25%）、大腸が29%（同25%）などと、それぞれ微増です。がんは早期発見による治療が医療費抑制にもつながるため、出来る限り多くの人に受診していただきたいと考えています。予算立ては、例年の受診率を勘案し、適切に行っていると認識していますが、今年度はこれまで以上に電話や案内文の送付等、周知と啓発に注力し、受診率向上に努めてまいります。
⑥保安林指定の松林の管理	保安林に指定されている高塚の松林は「保育期間が終わったので今後は所有者で手当てしてほしい」と、県が草刈り等をやめた。昨年、この場で訴えたところ、「県に相談する」とのことだったが、本日の資料では「県から原則地権者で手当てしてほしいと言われた」とのこと。これでは県に言われっぱなしであり、市の努力不足が否めない。より強い態度で交渉にあたってほしい。	保安林に指定されると地権者にも負担を強いることになるため、昨年、強い態度で県との交渉に臨みましたが、物別れに終わりました。保育期間が終わって、ある程度、大きく育った林であればこそ保安林の意味をなすため、「保育期間が終わったから地権者で」という県の言い分は、納得できるものではありません。引き続き、交渉を行っていきます。
⑦海浜公園に続く道	滑川海浜公園の場所を示す看板が、シーサイドタウン有磯住宅近くの県道1号線沿いにあるが、小さくてわかりづらいので、整備し直してほしい。また、県道1号線から同公園に向かう道は一昨年拡幅されたが、農繁期は農耕車と車が接触する危険性が高く、注意書きをお願いする。	看板については、小さいうえ、年数も経って色がわかりづらくなっており、すぐに対応することは難しいですが、よりわかりやすいものに付け替えられるよう、頑張ります。また、拡幅した道は、元々は農道だったため、農耕車への配慮を促せるような工夫をしたいと思います。

浜加積地区の主な提言等と回答要旨（H27春に開催した「市長と語る会」で）

提言等の項目	H27に開催の「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
⑧道の駅の駐車場	「道の駅ウェーブパーク滑川」の駐車場は、入口から出ていく車があったり、敷地内の一旦停止を守らなかったり、車の流れが減茶苦茶だ。特に高齢の運転手でそのような傾向が強い。運転手のモラル低下に尽きる話だが、市側で啓発できないか。	タラソピアを運営する株式会社WAVE滑川を通じた利用客への啓発・指導も検討し、なんとか改善を図りたいと思います。警備員の配置も一案です。
⑨定住促進策	人口減少は何年も前から始まっている。単に定住促進ポスターを作るだけでなく「ぜひ滑川に住みたい」と思える具体的施策が必要だ。例えば土地の安さ、子どもの医療費無料等の住みよい施策を強調したり、若者にタダで土地を提供するなど相当思い切った手を打たないと手遅れになる。	ポスターについては、市内の事業所等へのPRに役立てており、実際に引き合いのきっかけにも役立っています。ご指摘はごもっともであり、市側でもポスター作成に留まらず、様々な施策を展開しているところです。人口減少は全国の自治体が抱える課題であり、人口確保に向けた都市間競争が激化しています。滑川市は住みよさを向上させ、自ずと選ばれるまちづくり、子どもを産み育てやすい施策で、持続可能なまちづくりをこれまで以上に心掛けます。
⑩市イメージアップポスター	市イメージアップポスターは、大変すばらしいデザインで、「静かで平和なまち 滑川」の売り文句も良いが、「富山県」や「ホテルイカ」の文字も入れればなお良かった。	今後の参考にさせていただきます。
⑪食育	滑川市は給食を通じた食育に大変注力しているが、0～3歳児など給食の対象でない、幼稚園入園前の子ども達に対する食育も大切で、こちらの方面はまだ施策がいきわたっていない。現状の300万円という食育予算では、対応できないのではないか。	このほど開業した子ども図書館のほか、新たに整備する児童館、あずま保育所の計3か所に子育て支援員を配備し、子育て一般について保護者に助言できる体制を強化してまいります。この一環で、離乳食等、食育についてもアドバイスするなど、幼稚園入園前の子どもに対する食育もカバーしたい考えです。子ども図書館については、魚津市等、隣接自治体からも利用者がみられ、滑川市の子育て支援策を市外の方にも知っていただく場としても役立っています。
⑫特産品や名所、飲食店	県外の人に滑川の特産品を贈る際、良い物が思い浮かばない。名所についても、アウトドア面の娯楽性に欠ける。海岸線も全線にわたっては歩けない。一方、魚津市にはテニスができる早月川の緑地があり、海岸線も歩いて楽しい。歓楽街も賑やかだ。滑川市は夜に繰り出せる店や宿も少ない。市の現状をもっとシビアに評価し、観光面の魅力の充実化に取り組んでほしい。	滑川の特産品は何と言ってもホテルイカで、ふるさと納税の返礼品でもホテルイカ加工品を希望する新規の寄付者が相次いでいます。市シルバー人材センターが手掛ける海洋深層水仕込みの塩「滑川銀の塩」も新たな特産品として売れ行き好評です。海辺の夕焼けや早月川の清流など自然の名所が観光客に人気ですが、若者が遊べる場所や宿泊施設の不足も事実です。大規模コンベンションや各種全国大会の誘致、バウンドテニス大会やグルメイベント「キラリングルメの森」開催で継続的に人を呼びこめるよう努めます。北陸新幹線開業効果でほたるいかミュージアム入館者数は前年比3割増で推移しており、新幹線を弾みにさらに頑張ります。
⑬観光船の通年活用	「ほたるいか海上観光」の観光船は、春の1、2カ月しか使わないのは勿体ない。例えば海から立山連峰を眺めたり、夕焼けを眺めたりする海上観光を行い、通年利用すればよいのではないか。	今年初めて実施した3月15日からの前倒し運航が大変好評だったことから、来年以降の継続実施も視野に入れていきます。また、ご指摘の通年利用も既に検討中で、滑川市沖から立山連峰を眺める富山湾岸クルージングなども検討中です。
⑭ほたるいか海上観光	「ほたるいか海上観光」は観光船故障で今年のゴールデンウィーク中に欠航したが、そもそも、荒天時には出航できないリスクの高い観光だ。県外の観光客は、せつかくの休暇に、交通費や宿賃を負担して滑川まで来てくれる。欠航時には、ほたるいかミュージアムでの発光ショーや市場のせり見学等をやっているらしいが、料金に見合うサービスなのか。観光客に悪印象を与えないよう、料金と同額の特産品詰合せを渡すなど、よりよいサービスを心掛けてはどうか。欠航でも「また滑川に来たい」と思えるおもてなしを行ってほしい。	出航率は昨年は7割以上でしたが、例年は5割程度です。欠航時は料金自体を頂かず、発光ショーやホテルイカのポイル、キラリンとの記念撮影と現像した写真の提供を無料で行っており、これ以上は予算面で難しい現状です。大型連休中の運休は予約客約350人に影響が出ましたが、事前連絡で欠航と代替のサービス内容を伝えたところ、約200人が訪れました。営業時間は人員配備が難しい未明ですが、受付から観光船までの道のりをライトアップするなどサービス向上に努めています。欠航でも何年間もあきらめず通ってくださる遠方のお客様もおられ、ホテルイカ自体の魅力に加え、欠航時のサービスに一定の評価がなされているものと見ています。

浜加積地区の主な提言等と回答要旨（H27春に開催した「市長と語る会」で）

提言等の項目	H27に開催の「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
⑮ラジオ体操	夏休みの早朝ラジオ体操で最近、ラジオ体操第1・2ともできない児童が多い。指導を徹底するよう、教育長から学校に伝えてほしい。	しっかりとラジオ体操ができるよう指導します。